

基準6 . 教育の成果

(1) 観点ごとの自己評価

観点6 - 1 - 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取り組みが行われているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校は、学生の満足度を計るべく「KTC総合アンケート調査」を平成15年から実施しています。達成度と満足度には大きな違いがありますが、教育の質の向上を目指す第一歩として、在校生、卒業生、教職員、企業の方々の本校教育全般の満足度を調査し、改善に結びつけようとするものです。
- ・5年生に対するアンケート項目として「社会で求められる人材像」に関する項目を設けています。これは本校が目指す「技術者像」を構成する能力や資質を21項目に分けて質問したものです。学生自身は、非常に低い水準での自己評価でありました。反面、教員からの学生評価は、全体的に見て高く、達成度評価としては、整合性のない不十分な状況にあると考えています。(資料6 - 1 - - 1)
- ・在校生には「KTC授業アンケート調査」(資料6 - 1 - - 2)も実施しています。本校の教育課程を構成する各学科目が適切に実施され機能することが、本校の教育目的の達成には不可欠です。アンケート結果に基づいて各教員の授業改善を進めています。
- ・1年生を対象にキャリアデザイン教育を平成17年度から実施します。本校の学生の多くは、自らの目標を持つことが重要であることは理解できて、現実に目標に向かって努力し、達成の喜びを得る経験は十分とは言えないと考えています。平成18年度から2～5年生で実施するなど今後キャリアデザイン教育の充実を図り、達成感に基づく満足度の向上を目指す中で、達成度評価に結びつけていきたいと考えています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・厳密な意味での達成度評価が行えていないと認識しており、今後継続した努力が必要であると考えています。
- ・「KTC総合アンケート調査結果」の中で5年生と教員に対するアンケート結果の「人材の能力に関するまとめ」では、教員と学生の間意識のずれが見られます。卒業を間近に控え、社会に巣立つことへの不安も大きいものがあると感じています。達成感に基づく自信を持たせる等、さらなる努力が必要であると考えています。(資料6 - 1 - - 3)
- ・達成度評価の前提には、教職員と学生の目標に関するベクトルの一致が重要です。本校の目標とする「心豊かな人材像」「創造性あふれるエンジニア像」に対する明確なイメージをキャリアデザイン教育の充実の中で形成してまいりたいと考えています。

(資料6 - 1 - - 1)

「社会で求められる人材像」

[5 年 生]

■ 社会で求められる「人材像」についてお聞きします。

(11) 下記に挙げた「社会で求められる能力」に関して、あなた自身は現段階で各々の項目をどの程度満たしていると思いますか？

	満たしている	やや満たしている	あまり満たしていない	満たしていない
1. 広く情報を収集する能力	1	2	3	4
2. 収集された情報を整理する能力	1	2	3	4
3. 物事を論理的に考える能力	1	2	3	4
4. ひとつの事柄を様々な視点から捉える能力	1	2	3	4
5. 課題解決のための仮説を構築する能力	1	2	3	4
6. 課題解決のため自ら行動を起こせる自律性	1	2	3	4
7. 周囲と共同し共創していけるコミュニケーション能力	1	2	3	4
8. 自分の意見を分かりやすくまとめ表現できる能力	1	2	3	4
9. 目的に向かってグループをまとめるリーダーシップ能力	1	2	3	4
10. 相手の立場になって考えられる思いやりの心	1	2	3	4
11. 新しい知識・技術に興味をもつ知的好奇心	1	2	3	4
12. 常に新たなものに挑戦する活力	1	2	3	4
13. ねばり強く努力を続ける勤勉さ	1	2	3	4
14. 周囲に対する謙実さ	1	2	3	4
15. 社会人としての基本的な常識	1	2	3	4
16. 技術者として社会に対する責任を自覚する能力	1	2	3	4
17. 自らの専門分野に関しての基礎的な知識や技術	1	2	3	4
18. 社会で役立つ実践的・応用的な知識や技術	1	2	3	4
19. 外国語（英語）の読み書きなどの国際的なコミュニケーション能力	1	2	3	4
20. パソコンやインターネットを使いこなす能力	1	2	3	4
21. 自分自身で将来のキャリアプランを考え、自己実現を目指す姿勢	1	2	3	4

[教 職 員]

■ 社会で求められる「人材像」についてお聞きします。

(3) 一般的な新入社員は、社会からどのような能力が求められていると思いますか？また、本校の卒業生が卒業時点で各々の項目をどの程度満たしていると思いますか？

	社会が新入社員に求める能力				卒業生（卒業時点）			
	求められている	少し求められている	あまり求められていない	求められていない	満たしている	少し満たしている	あまり満たしていない	満たしていない
1. 広く情報を収集する能力	1	2	3	4	1	2	3	4
2. 収集された情報を整理する能力	1	2	3	4	1	2	3	4
3. 物事を論理的に考える能力	1	2	3	4	1	2	3	4
4. ひとつの事柄を様々な視点から捉える能力	1	2	3	4	1	2	3	4
5. 課題解決のための仮説を構築する能力	1	2	3	4	1	2	3	4
6. 課題解決のため自ら行動を起こせる自律性	1	2	3	4	1	2	3	4
7. 周囲と共同し共創していけるコミュニケーション能力	1	2	3	4	1	2	3	4
8. 自分の意見を分かりやすくまとめ表現できる能力	1	2	3	4	1	2	3	4
9. 目的に向かってグループをまとめるリーダーシップ能力	1	2	3	4	1	2	3	4
10. 相手の立場になって考えられる思いやりの心	1	2	3	4	1	2	3	4
11. 新しい知識・技術に興味をもつ知的好奇心	1	2	3	4	1	2	3	4
12. 常に新たなものに挑戦する活力	1	2	3	4	1	2	3	4
13. ねばり強く努力を続ける勤勉さ	1	2	3	4	1	2	3	4
14. 周囲に対する謙実さ	1	2	3	4	1	2	3	4
15. 社会人としての基本的な常識	1	2	3	4	1	2	3	4
16. 技術者として社会に対する責任を自覚する能力	1	2	3	4	1	2	3	4
17. 自らの専門分野に関しての基礎的な知識や技術	1	2	3	4	1	2	3	4
18. 社会で役立つ実践的・応用的な知識や技術	1	2	3	4	1	2	3	4
19. 外国語（英語）の読み書きなどの国際的なコミュニケーション能力	1	2	3	4	1	2	3	4
20. パソコンやインターネットを使いこなす能力	1	2	3	4	1	2	3	4
21. 自分自身で将来のキャリアプランを考え、自己実現を目指す姿勢	1	2	3	4	1	2	3	4

(4) 上記以外に、本校学生が身につけたら良いと思われる能力（または資格）はありますか？また、その理由はどのようなものですか？

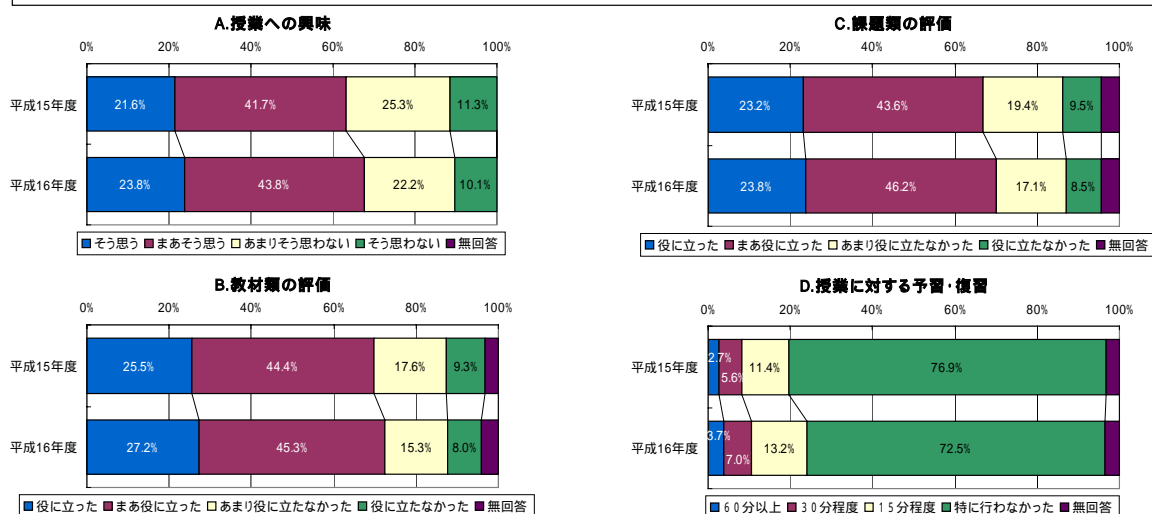
(資料6 - 1 - - 2)

「授業アンケート調査結果」

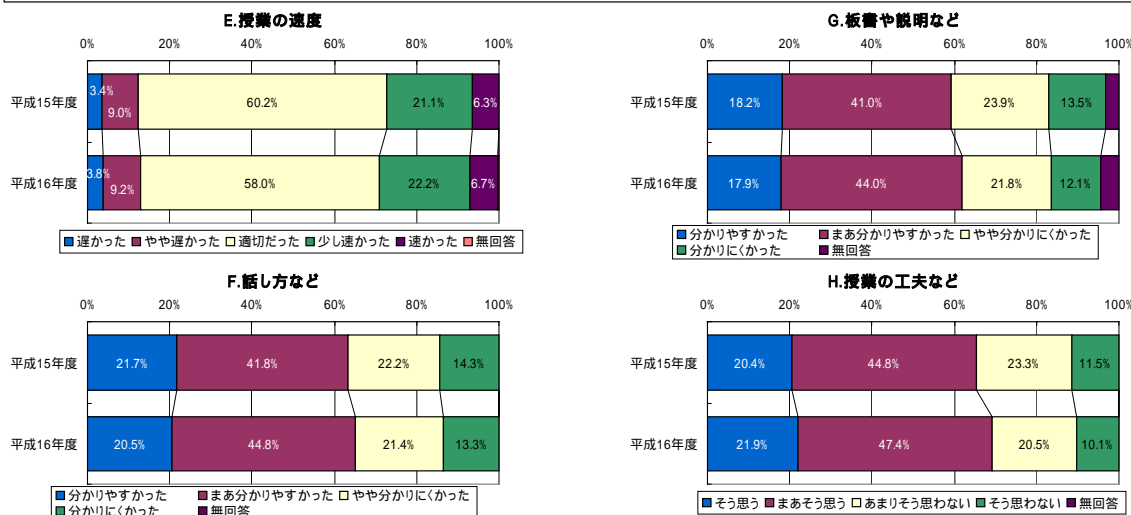
<3> 基本的集計

1) 全設問の単純集計(昨年度との比較)

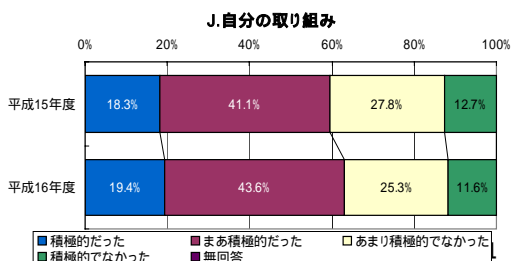
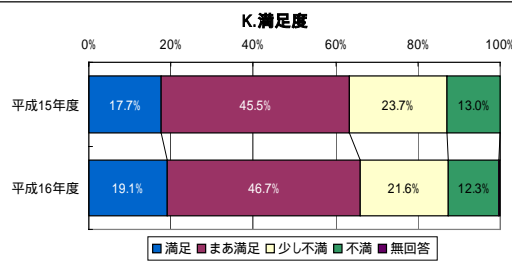
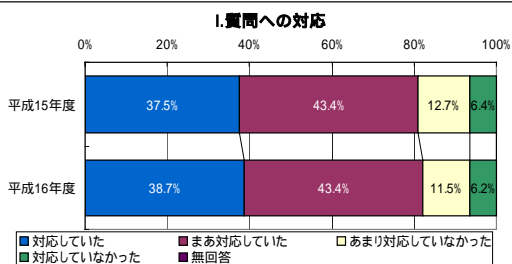
- 個別の項目に関して昨年度との比較を行いながら単純集計を確認した。
- 「授業への興味」に関しては、23.8%が「そう思う」、43.8%が「まあそう思う」であり、合わせて67.6%が授業に興味を持っていると回答していた。そして平成15年度(以下、H15)と比較すると、興味の度合いは4.3ポイント増加していることが確認できた。
- 「教材類の評価」は27.2%が「役に立った」、45.3%が「まあ役に立った」と回答しており、全体では72.5%が役に立ったと感じていた。また、H15との比較では、役に立ったと感じている回答が2.6ポイント増加していた。
- 「課題類の評価」も高く、「役に立った」が23.8%、「まあ役に立った」が46.2%であり、合わせて70.0%が役に立ったと感じていた。H15との比較では「役に立った」はあまり変わらなかったが、「まあ役に立った」を含めると3.2ポイント増加しており、評価は良くなっていた。
- 各々の「授業に対する予習・復習」の時間は、「60分以上」が3.7%、「30分程度」が7.0%、「15分程度」が13.2%で、「特に行わなかった」は72.5%であった。H15との比較を見ると時間は増加しており、「特に行わなかった」は4.4ポイント減少していた。



- 「授業の速度」に対する評価は、「遅かった」、「やや遅かった」を合わせると13.0%、「速かった」、「少し速かった」を合わせると28.9%であり、学生は授業の速度を少し速く感じているようであった。そして、H15と比較すると遅めに感じている回答は0.6ポイント増加し、速めと感じている回答は1.5ポイント増加していた。
- 「話し方など」では「分かりやすかった」が20.5%、「まあ分かりやすかった」が44.8%であり、合わせて65.3%は分かりやすいと感じていた。そして、H15との比較では「分かりやすかった」はわずかに減少したが、トータルとしては話し方は分かりやすくなっているようであった。
- 「板書や説明など」に関しては「分かりやすかった」が17.9%、「まあ分かりやすかった」が44.0%であり、合わせて61.9%が分かりやすいと感じていた。H15との比較では「まあ分かりやすかった」が3ポイント増加しており、トータルで見ても分かりやすくなっているようであった。
- 「授業の工夫など」に関しては、21.9%が工夫していると感じており、「まあそう思う」と合わせると69.3%は授業が工夫されていると感じていた。また、H15との比較では、工夫していると感じている意見は4.1ポイント増加していた。



- 教員の授業中、授業後の「質問への対応」に関しては、38.7%が丁寧に対応していたと回答しており、「まあ対応していた」と合わせると82.1%は教員の対応に満足していると感じていた。また、H15と比較すると対応の評価は良くなっていることが分かった。
- 「自分の取り組み(授業に対して積極的に取り組んでいたか)」に関しては、19.4%が「積極的だった」、43.6%が「まあ積極的だった」と回答しており、全体の63.0%は積極的に取り組んでいた。H15との比較では「積極的だった」「まあ積極的だった」の両者ともに増加しており、H15より積極性が増していることが確認できた。
- 授業に対する「満足度」では、「満足」が19.1%、「まあ満足度」が46.7%であり、全体の65.8%が満足していることが分かった。H15との比較では、「満足」が1.4ポイント増加し、「まあ満足」も1.2ポイント増加しており、全体では満足しているという回答が2.6ポイント増加していた。
- また、不満に関して見ると、「不満」という意見は前年度とあまり変わらず、一定数の不満を感じている層がいることが分かった。そして、「少し不満」が昨年度より2.1ポイント減少していることから、前年に少し不満を感じていた層がまあ満足という意見に変わったことが考えられる。



「平成16年度 KTC授業アンケート調査結果」PP.5～7)

(資料6 - 1 - - 3)

「人材の能力に関するまとめ」

人材の能力に関するまとめ

学生自身は「知的好奇心」「誠実さ」「思いやりの心」があり、「国際的コミュニケーション能力」「実践的な力」が欠けていると感じている。

- 上記の通り、学生自身の自己評価では「知的好奇心」「誠実さ」「思いやりの心」の3点に関しては比較的信頼を持っているようであった。
- 自信を持っていない面は多かったが、「国際的なコミュニケーション能力」「実践的・応用的な技術や知識」「専門分野の知識や技術」「リーダーシップ」「自己実現を目指す姿勢」などが欠けていると感じていた。

社会ニーズから考えると「様々な視点から捉える能力」「仮説構築能力」「自律性」「理論的思考能力」が足りない。

- 教員の「社会が求める能力」と「卒業時点の学生の能力」を比較すると、現在の卒業生には「様々な視点から捉える能力」「仮説構築能力」「自律性」「理論的思考能力」などが不足していると感じていた。
- 逆に、「パソコンやインターネット活用能力」は充分であり、「英語などのコミュニケーション能力」「誠実さ」「思いやりの心」など対人関係能力も備えていると考えている。

KTCの学生に対する教員の評価は高く、「パソコンやインターネット活用能力」は非常に高いと考えている。

- 5年生の現在の自己評価と比べると、教員の卒業生評価は非常に高く、KTCの卒業生に自信を持っていることがうかがえた。
- 特に「パソコンやインターネット活用能力」の評価は突出しており、次いで「誠実さ」「共同共創できるコミュニケーション能力」「思いやりの心」「英語などのコミュニケーション能力」など、対人関係能力にもっと自信を持つべきだと感じていた。

教員の学生能力評価は昨年度と差は少ないが、「英語などのコミュニケーション能力」は上がっていると感じていた。

- 教員評価で昨年度より向上したのは、「英語などの国際的なコミュニケーション能力」「専門分野の知識や技術」「理論的な思考能力」などであり、これらには学科再編なども影響しているのではないかと考えられた。
- 逆に評価が下がったのは「自律性」「意見を分かりやすくまとめる能力」「様々な視点から捉える能力」といった点であった。



<人材の能力に関するまとめ>

- 昨年度と同様に教員の学生評価は全体的に高く、教員はKTC卒業生に誇りを持っており、もっと自信を持つべきだと考えているように思われた。
- 様々な側面から見てKTC卒業生の【強み】【弱み】はある程度明確になってきている。【強み】はKTCが教育の特徴としている「パソコンやインターネット活用能力」「英語などの国際的なコミュニケーション能力」といったものや、「誠実さ」「思いやりの心」「共同共創できるコミュニケーション能力」といった対人関係に関するものであった。逆に【弱み】は「様々な視点から捉える能力」「仮説構築能力」「自律性」「理論的思考能力」といった、ものの考え方に関する点であった。
- 上記のように、現在の学生の姿はおぼろげに見えてきており、それに対する対応策も順次、出てくるものと思われる。そして、それらの対応策を実施しながら、3年後に予定している企業調査など、外部から卒業生を見た際に、どのようにデータが変化しているのかに着目していくべきだと思う。

観点 6 - 1 - 各学年や卒業(修了)時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得状況、進級の状況、卒業(修了)時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校の教育実践目標や各学科の目標に基づく学力や資質、能力の評価は、各学科目における評価の積み重ねによって表わされます。このため、各学科目担当教員は、評価基準を各々工夫し単に定期試験による成績だけでなく、授業態度や提出レポート等も含む総合的な評価を行っています。また、各学科目担当教員は、自らの評価基準について学生に周知徹底を図っています。従って、成績不良によって進級できなかつたり、退学者がいることは、止むを得ないと考えています。
- ・進級が危ぶまれる学生に対しては、担任が中心となって修学指導を行っています。さらに、学期毎に成績不良科目の補習指導や再試験などを行っています。それでも留年生が出ることは、成績評価を厳格に行うため止むを得ないと認識しています。
- ・平成16年度の退学理由の内訳は、次の通りでした。
〔進路変更(大学進学・就職等)19名、成績不良5名、経済的理由1名、病気・負傷2名〕
- ・資格取得や夢考房活動、海外留学等、学生の自己実現を目指す自発的な活動こそが、最も人間性を豊かにし、創造性につながると考えています。これらは、未だ十分とはいえませんが、学生の自主的な取り組みの中で成果が表れてきたと考えています。(資料6-1-1「主な資格取得状況」)(資料6-1-2「夢考房プロジェクト参加者数一覧表」)(資料6-1-3「海外留学状況」)
- ・卒業研究(創造実験)は、学生がこれまで身に付けてきた力を発揮する集大成の科目として、学科ごとに発表会を開催し、学生のプレゼンテーションによる活発な質疑が行われます。これにより、学生の教育成果の水準が保持できていると考えています。また、提出されたすべての卒業論文は製本され、ライブラリーセンターに保管されることによって後輩達の参考に供されています。
- ・毎年数人の学生が卒業研究の成果を電気或いは機械の関連学会等で発表しています。(資料6-1-4「学生の学会発表数」)

(資料6 - 1 - - 1)

「主な資格取得状況」

資格名	種別	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
		合格者	合格者	合格者	合格者	合格者
危険物取扱者	乙種1類	6	3	3	2	0
	乙2	5	2	2	2	5
	乙3	5	3	2	2	3
	乙4	17	8	8	14	5
	乙5	4	4	4	3	1
	乙6	3	6	4	0	2
消防設備士	丙種	5	5	10	9	6
	甲4	0	0	1	0	0
	乙4	0	0	0	1	0
ボイラー技士	乙7	0	0	0	1	1
電気主任技術者	2級	4	2	2	0	0
	第3種	0	0	2	2	0
電気工事士	第3種科目合格	0	11	14	8	12
	第2種	14	12	28	21	19
工事担任者	デジタル3種	0	2	0	0	0
	総合種	0	0	1	0	0
ラジオ・音響技能検定	3級	4	2	0	1	1
	4級	4	1	2	2	0
特殊無線技士	陸上1級	0	0	0	1	0
	航空	2	0	0	0	0
情報処理技術者	基本情報(2種)	2	0	5	2	4
	初級シスアド	1	2	0	1	1
デジタル技術検定	2級(情報)	2	0	2	2	0
	3級	5	5	4	1	0
	4級	5	2	2	0	0
画像情報技能検定	CG2級	0	0	1	1	0
	CG3級	0	9	5	5	4
	画像処理2級	0	0	1	0	0
	画像処理3級	1	2	0	0	2
	マルチメディア2級	0	1	1	1	0
	マルチメディア3級	5	4	4	6	2
火薬類保安責任者	甲種取扱	1	0	0	0	0
機械設計技術者	3級	0	5	10	5	6
	2級	2	4	1	2	6
実用英語技能検定	準2級	3	9	12	4	13
	3級	3	1	1	4	5
工業英語検定	3級	1	1	1	0	1
	4級	0	4	5	8	6
漢字能力検定	2級	0	0	2	1	0
	準2級	3	7	3	6	12
	3級	5	3	10	6	13
	4級	2				0
日本語文章能力検定	2級	0	0	0	0	1
	準2級	2	0	2	1	12
	3級	17	3	10	14	10
	4級	21	18	15	22	0
実用数学技能検定	2級	0	0	1	0	1
	準2級	4	2	13	12	9
3級	3級	27	5	29	19	13
	2級	0	0	1	0	1
パソコンコンピュータ 利用技術認定	3級	0	1	0	1	15
	4級	8	4	12	2	
CAD利用技術者	2級	1	0	0	0	0
秘書技能検定	2級	3	2	1	0	4
	3級	9	3	0	5	4
カラーコピー機検定	2級	0	0	0	1	1
	3級	6	0	4	3	1
情報技術検定(高専対象)	1級	1	6	4	1	8
	2級	12	27	8	33	38
	3級	8	6	31	38	63
ガス溶接技能者		16	18	19	11	2
MOUSE	Excel一般	1				
電気取扱業務安全衛生特別教育		85	41	23	34	47
合計		335	256	326	321	360

(資料6 - 1 - - 2)

「夢考房プロジェクト参加者数一覧表」

年度 プロジェクト名	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	総計
ロボット	15	11	21	34	21	22	124
RoboCup				2	3	0	5
ソーラーカー					2	3	5
ソーラーボート				3	1	1	5
風力発電					1	1	2
総計	15	11	21	39	28	27	141

(資料6 - 1 - - 3)

「海外留学状況」

海外英語研修(短期)

年度	期間	留学先	参加者数():女子学生内数
平成11年度	7月1日～8月5日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年生 27(5)人 機械工学科 3年生 6人 機械工学科 4年生 1人 計34(5)人
平成12年度	6月30日～8月4日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年生 28(8)人 電気工学科 4年生 2人 機械工学科 3年生 13人 計43(8)人
平成13年度	6月30日～8月4日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年生 26(4)人 機械工学科 3年生 14人 計40(4)人
平成14年度	6月30日～8月18日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年生 30(5)人 機械工学科 3年生 15(1)人 計45(6)人
平成15年度	6月30日～8月18日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年生 26(4)人 機械工学科 3年生 8人 計34(4)人
平成16年度	6月30日～8月4日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年生 22人 機械工学科 2年生 6人 機械工学科 3年生 8人 電気情報工学科 2年生 14(1)人 国際コミュニケーション情報工学科 2年生 9(4)人 計59(5)人
平成17年度	6月30日～8月4日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気情報工学科 2年生 13(1)人 機械工学科 2年生 7(1)人 国際コミュニケーション情報工学科 2年生 16(2)人 計36(4)人

海外留学(期間:4月上旬から翌年3月下旬)

年度	留学先	参加者数():女子学生内数
平成11年度	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 4年修了生 2人 機械工学科 4年修了生 1人 計 3人
平成12年度	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 4年修了生 4人 機械工学科 4年修了生 2人 機械工学科 5年修了生 2(1)人 計 8(1)人
平成13年度	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 5年修了生 2(2)人 機械工学科 5年修了生 1人 計 3(2)人
平成14年度	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 4年修了生 1人 電気工学科 5年修了生 3人 計 4人
平成15年度	(アメリカ) セント・マイケルス大学 (ニュー・ゼラント) オタゴ・ホリテクニク	電気工学科 4年修了生 1人 計 1人 電気工学科 3年修了生 8(1)人 機械工学科 3年修了生 3人 機械工学科 4年修了生 1人 計 12(1)人
平成16年度	(アメリカ) セント・マイケルス大学 (ニュー・ゼラント) オタゴ・ホリテクニク	電気工学科 3年修了生 2人 機械工学科 5年修了生 1人 計 3人 電気工学科 2年修了生 16(1)人 電気工学科 3年修了生 2(1)人 電気工学科 4年修了生 1(1)人 機械工学科 2年修了生 8(2)人 計 27(5)人
平成17年度	(アメリカ) セント・マイケルス大学 (ニュー・ゼラント) オタゴ・ホリテクニク	電気工学科 3年修了生 1人 計 1人 電気情報工学科 2年修了生 6人 機械工学科 2年修了生 1人 国際コミュニケーション情報工学科 2年修了生 15(5)人 電気工学科 5年修了生 1人 計 23(5)人

(資料 6 - 1 - - 4)

「学生の学会発表数」

	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	総 計
電気系学会	7	15	3	4	20	49
機械系学会	0	0	0	0	10	10
計	7	15	3	4	30	59

(分析結果とその根拠理由)

- ・ 厳しい成績評価の中で、毎年複数の留年生や退学者が出ることは残念なことです。一方で卒業生の就職や進学の様子は、評価基準の適切性を証明するものと考えています。(資料 6 - 1 - - 5「在学生の状況」)(資料 6 - 1 - - 6「休学者の状況」)(資料 6 - 1 - - 7「退学者の状況」)(資料 6 - 1 - - 8「留年生の状況」)
- ・ 資格取得や夢考房活動、海外での短期・長期留学等、学生の自発的学習意欲と活動による様々な取り組みも徐々に活性化しており、今後、より一層の進展を目指します。

(資料 6 - 1 - - 5)

「在学生の状況(準学士課程)」 5月1日現在

平成12年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
電気工学科	101	12	113	98	10	108	77	11	88	80	12	92	79	13	92	435	58	493
機械工学科	55	1	56	46	0	46	43	0	43	46	1	47	46	1	47	236	3	239
合 計	156	13	169	144	10	154	120	11	131	126	13	139	125	14	139	671	61	732

平成13年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
電気工学科	76	6	82	94	11	105	95	9	104	72	9	81	75	11	86	412	46	458
機械工学科	39	0	39	52	1	53	46	0	46	42	0	42	46	1	47	225	2	227
合 計	115	6	121	146	12	158	141	9	150	114	9	123	121	12	133	637	48	685

平成14年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
電気工学科	82	7	89	74	6	80	88	10	98	86	8	94	68	9	77	398	40	438
機械工学科	46	2	48	37	0	37	54	1	55	41	0	41	40	0	40	218	3	221
合 計	128	9	137	111	6	117	142	11	153	127	8	135	108	9	117	616	43	659

平成15年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
電気工学科	0	1	1	79	6	85	73	6	79	79	8	87	87	6	93	318	27	345
機械工学科	54	1	55	45	2	47	36	0	36	51	1	52	39	0	39	225	4	229
電気情報工学科	53	1	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	53	1	54
国際コミュニケーション 情報工学科	27	7	34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	7	34
合 計	134	10	144	124	8	132	109	6	115	130	9	139	126	6	132	623	39	662

平成16年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
電気工学科	0	1	1	3	0	3	76	6	82	73	7	80	68	7	75	220	21	241
機械工学科	53	0	53	54	1	55	44	2	46	40	0	40	47	1	48	238	4	242
電気情報工学科	49	1	50	51	1	52	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	2	102
国際コミュニケーション 情報工学科	30	8	38	27	7	34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	57	15	72
合 計	132	10	142	135	9	144	120	8	128	113	7	120	115	8	123	615	42	657

平成 17 年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
電気工学科	-	-	-	2	0	2	1	0	1	72	6	78	66	7	73	141	13	154
機械工学科	49	0	49	53	1	54	54	1	55	41	2	43	36	0	36	233	4	237
電気情報工学科	47	1	48	46	1	47	48	1	49	-	-	-	-	-	-	141	3	144
国際コミュニケーション 情報工学科	26	8	34	28	7	35	25	7	32	-	-	-	-	-	-	79	22	101
合 計	122	9	131	129	9	138	128	9	137	113	8	121	102	7	109	594	42	636

(資料 6 - 1 - - 6)

「休学者の状況(準学士課程)」

平成12年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)
電気工学科	113	0	0	108	0	0	88	0	0	92	1	1.1	92	4	4.3	493	5	1
機械工学科	56	0	0	46	0	0	43	0	0	47	0	0	47	2	4.3	239	2	0.8
合 計	169	0	0	154	0	0	131	0	0	139	1	0.7	139	6	4.3	732	7	1

平成13年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)
電気工学科	82	1	1.2	105	0	0	104	0	0	81	0	0	86	0	0	458	1	0.2
機械工学科	39	0	0	53	0	0	46	0	0	42	0	0	47	1	2.1	227	1	0.4
合 計	121	1	0.8	158	0	0	150	0	0	123	0	0	133	1	0.8	685	2	0.3

平成14年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)
電気工学科	89	1	1.1	80	0	0	98	0	0	94	1	1.1	77	1	1.3	438	3	0.7
機械工学科	48	0	0	37	0	0	55	0	0	41	0	0	40	0	0	221	0	0
合 計	137	1	0.7	117	0	0	153	0	0	135	1	0.7	117	1	0.9	659	3	0.5

平成15年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)
電気工学科	1	1	100	85	2	2.4	79	1	1.3	87	8	9.2	93	1	1.1	345	13	3.8
電気情報工学科	54	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	54		
機械工学科	55	0	0	47	0	0	36	0	0	52	3	5.8	39	1	2.6	229	4	1.7
国際コミュニケーション情報工学科	34	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	34	0	0
合 計	144	1	0.7	132	2	1.5	115	1	0.9	139	11	8.0	132	2	1.5	662	17	2.6

平成16年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)	在学者	休学者	率 (%)
電気工学科	1	0	0	3	0	0	82	1	1.2	80	5	6.3	75	1	1.3	241	7	2.9
電気情報工学科	50	2	4	52	3		-	-	-	-	-	-	-	-	-	102	5	4.9
機械工学科	53	0	0	55	0	0	46	0	0	40	0	0	48	0	0	242	0	0
国際コミュニケーション情報工学科	38	2	5.2	34	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	72	2	2.8
合 計	142	4	2.8	144	3	2.0	128	1	0.83	120	5	4.2	123	1	0.8	657	14	2.1

(資料6 - 1 - - 7)

「退学者の状況(準学士課程)」

平成12年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)
電気工学科	113	5	4.4	108	4	3.7	88	7	8	92	9	9.8	92	0	0	493	25	5.1
機械工学科	56	3	5.4	46	1	2.2	43	2	4.7	47	1	2.1	47	0	0	239	7	2.9
合 計	169	8	4.7	154	5	3.2	131	9	6.9	139	10	7.2	139	0	0	732	32	4.4

平成13年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)
電気工学科	82	2	2.4	105	4	3.8	104	10	9.6	81	3	3.7	86	0	0	458	19	4.1
機械工学科	39	0	0	53	0	0	46	5	10.9	42	1	2.4	47	1	2.1	227	7	3.1
合 計	121	2	1.7	158	4	2.5	150	15	10	123	4	3.3	133	1	0.8	685	26	3.8

平成14年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)
電気工学科	89	4	4.5	80	2	2.5	98	10	10.2	94	3	3.2	77	0	0	438	19	4.3
機械工学科	48	1	2.1	37	3	8.1	55	4	7.3	41	1	2.4	40	0	0	221	9	4.1
合 計	137	5	3.6	117	5	4.3	153	14	9.2	135	4	3	117	0	0	659	28	4.2

平成15年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)
電気工学科	1	0	0	85	2	2.4	79	6	7.6	87	4	4.6	93	0	0	345	12	3.5
電気情報工学科	54	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	54	0	0
機械工学科	55	0	0	47	1	2.1	36	0	0	52	1	0	39	1	2.6	229	3	1.3
国際コミュニケーション 情報工学科	34	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	34	0	0
合 計	144	0	0	132	3	2.3	115	6	5.2	139	5	3.6	132	1	0.8	662	15	2.3

平成16年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)	在学者	退学者	率 (%)
電気工学科	1	0	0	3	0	0	82	6	7.3	80	4	5.0	75	0	0	241	10	4.1
電気情報工学科	50	2	4.0	52	4	7.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	102	6	5.9
機械工学科	53	0	0	55	0	0	46	4	8.7	40	3	7.5	48	1	2.1	242	8	3.3
国際コミュニケーション 情報工学科	38	3	7.9	34	1	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	72	4	5.6
合 計	142	5	3.5	144	5	3.5	128	10	7.8	120	7	5.8	123	1	0.8	657	28	4.3

(資料6-1--8)

「留年者の状況(準学士課程)」

平成12年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)
電気工学科	113	2	1.8	108	4	3.7	88	1	1.1	92	1	1.1	92	0	0	493	8	1.6
機械工学科	56	3	5.4	46	0	0	43	0	0	47	1	2.1	47	0	0	239	4	1.7
合計	169	5	0.3	154	4	2.6	131	1	0.8	139	2	1.4	139	0	0	732	12	1.6

平成13年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)
電気工学科	82	4	4.9	105	1	1	104	1	1	81	1	1.2	86	0	0	458	7	1.5
機械工学科	39	0	0	53	0	0	46	0	0	42	1	2.4	47	0	0	227	1	0.4
合計	121	4	3.3	158	1	0.6	150	1	0.7	123	2	1.6	133	0	0	685	8	1.2

平成14年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)
電気工学科	89	2	2.2	80	3	2.4	98	0	0	94	1	1.1	77	0	0	438	6	1.4
機械工学科	48	0	0	37	0	0	55	2	3.6	41	1	2.4	40	0	0	221	3	1.4
合計	137	2	1.5	117	3	2.6	153	2	1.3	135	2	1.5	117	0	0	659	9	1.4

平成15年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)
電気工学科	1	1	100	85	2	2.4	79	2	2.5	87	0	0	93	0	0	345	5	1.4
電気情報工学科	54	1	1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	54	1	1.9
機械工学科	55	0	0	47	0	0	36	0	0	52	1	1.9	39	0	0	229	1	0.4
国際コミュニケーション 情報工学科	34	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	34	0	0
合計	144	2	1.4	132	2	1.5	115	2	1.7	139	1	0.7	132	0	0	662	7	1.1

平成16年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)	在学者	留年者	率 (%)
電気工学科	1	1	100	3	0	0	82	2	2.4	80	9	11.3	75	1	1.3	241	13	5.4
電気情報工学科	50	1	2	52	3	5.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	102	4	3.9
機械工学科	53	0	0	55	0	0	46	0	0	40	4	10	48	1	2.1	242	5	2.1
国際コミュニケーション 情報工学科	38	1	2.6	34	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	72	1	1.4
合計	142	3	2.1	144	3	2.1	128	2	1.6	120	13	10.8	123	2	1.6	657	23	3.5

観点 6 - 1 - 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点にかかる状況）

- ・就職や進学に関しては、学生の希望が十分に満たされるよう努力し、成果が得られているものと認識しています。
- ・平成15年度に実施した企業や卒業生に対するアンケート調査の結果は、本校の教育実践を肯定的に評価してくれていると認識しています。（6 - 1 - - 1 「KTC総合アンケート調査結果」）

（分析結果とその根拠理由）

- ・就職率は毎年100%を達成し、進学希望者も金沢工業大学を始めとする進学希望先へ進学が果たされてきた状況にあり、教育の成果は上がっていると考えています。
- （6 - 1 - - 2 「卒業後の進路の状況」）（6 - 1 - - 3 「就職状況（職業別）」）（6 - 1 - - 4 「就職状況（産業別）」）（6 - 1 - - 5 「進路先一覧」）（6 - 1 - - 6 「進学状況（進学者数）」）（6 - 1 - - 7 「進学状況（進学先）」）
- ・本校卒業生の就職先企業が、多年にわたり継続して卒業生を採用してくれている実績は、本校の教育の成果の一面であると考えています。

(6 - 1 - - 1)

「KTC総合アンケート調査結果」

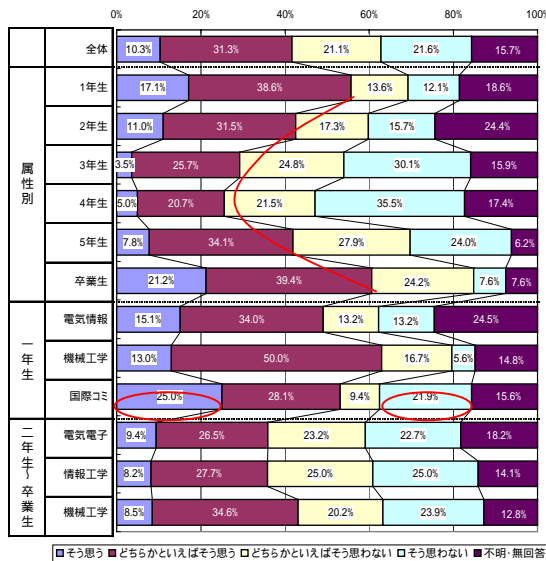
詳細データ

< 2 - 1 > 金沢高専の満足度

? 目標に関して

- 目標に関しては学年の半ばで見失う傾向が見られた。1年生の段階では過半数が目標に近づいていると感じているが、4年生ではその割合は3割に減少し、5年生で4割に復活している。
- 学科では、1年生の「国際コミ」は肯定的と非否定的な意見の二極化がみられる。また、「機械工学」は肯定的な意見が多かった。
- 2年生以降では学科による差は少なかったが、「機械工学」が少し肯定的であった。

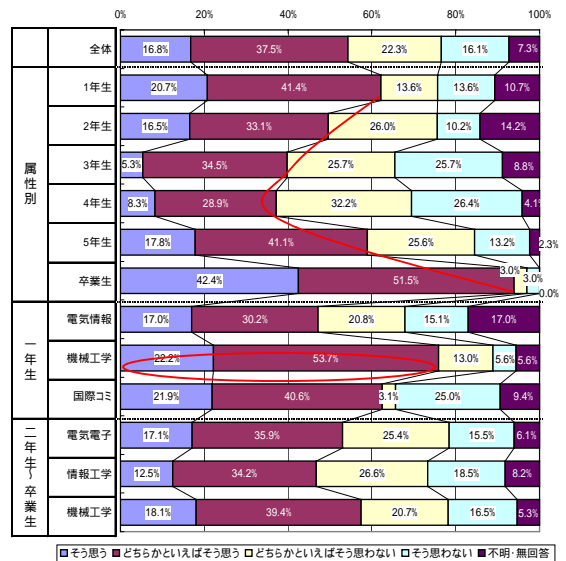
金沢高専で学ぶことで自分の目標に近づいている



? 学生生活の充実に関して

- 学生生活の充実度に関して1年生と卒業生の充実度が高く、学年の半ばである4年生で最低になることが確認でき、中だるみのようなものがあるように考えられる。
- 卒業生で学生生活が充実していたという肯定的意見は93.9%であった。
- 学科ではやはり1年生の「機械工学」が充実していたと回答していた。そして、2年生以降では学科による差が小さいものの、「機械工学」が充実度が高いという傾向が確認できる。

学生生活は充実している



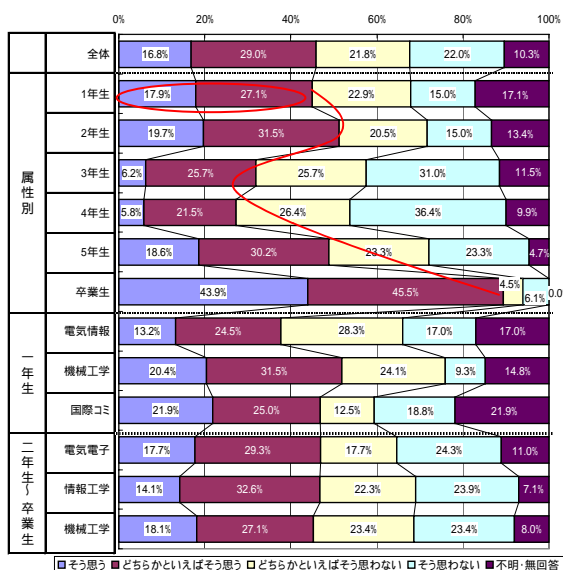
詳細データ

< 2 - 1 > 金沢高専の満足度

? 金沢高専への愛着に関して

- 金沢高専への愛着に関しては1年生がやや低めであった。そして、2年生と5年生、卒業生が高めであり、半ばである3年生と4年生が低いというものであり、他の項目と同じ傾向が見られた。
- やはり、3年生と4年生に何らかの動きがあるといえる。
- 学科では、1年生において差はあまり大きくないが、「機械工学」が高めであった。

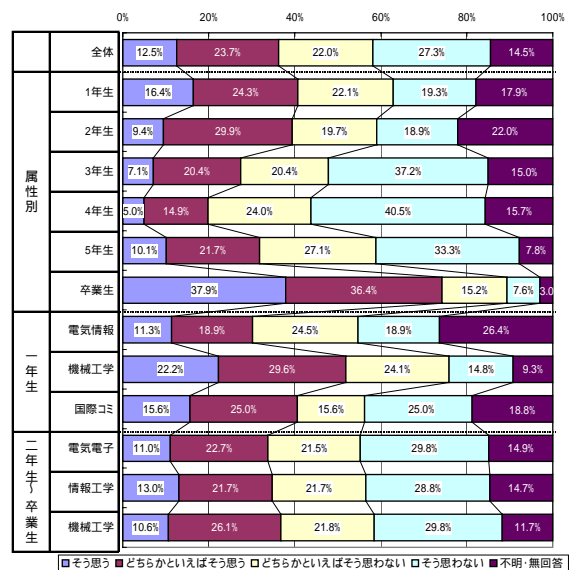
金沢高専が好きである



? 金沢高専の学生であることの誇りに関して

- 誇りに関しても他と同じ傾向があった。1年生は愛着は弱かったものの誇りは充分に持っていた。そして、やはり3年生、4年生が誇りを持っておらず、4年生では「そう思わない」が40.5%と非常に多かった。
- 学科では、ここでも1年生の「機械工学」が強く誇りを持っていることが確認できたが、1年生でも「電気情報」は2年生以降よりも弱いことが分かる。
- 2年生以降では、ほとんど差がなかったといつて良いのと思われる。

金沢高専の学生であることに誇りを持っている



(出典 「平成15年度 KTC総合アンケート調査結果」 PP.11 ~ 12)

(6 - 1 - - 2)

「卒業後の進路の状況（準学士課程）」

平成12年度卒業生

	卒業生数			就 職						進 学						就職進学者数			左記以外の者			死亡・不詳の者			進路未決定率			
				希望者数			就職者数			就職者内訳	就職率	希望者数			進学者数											進学率		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女		計	
電気工学科	75	13	88	48	9	57	48	9	57	別紙	100	25	4	29	25	4	29	100	73	13	86	2	0	2	0	0	0	0
機械工学科	44	1	45	23	1	24	23	1	24		100	21	0	21	21	0	21	100	44	1	45	0	0	0	0	0	0	0
計	119	14	133	71	10	81	71	10	81		100	46	4	50	46	4	50	100	117	14	131	2	0	2	0	0	0	0

平成13年度卒業生

	卒業生数			就 職						進 学						就職進学者数			左記以外の者			死亡・不詳の者			進路未決定率			
				希望者数			就職者数			就職者内訳	就職率	希望者数			進学者数											進学率		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女		計	
電気工学科	75	11	86	44	10	54	44	10	54	別紙	100	29	1	30	29	1	30	100	73	11	84	2	0	2	0	0	0	0
機械工学科	45	1	46	32	1	33	32	1	33		100	12	0	12	12	0	12	100	44	1	45	1	0	1	0	0	0	0
計	120	12	132	76	11	87	76	11	87		100	41	1	42	41	1	42	100	117	12	129	3	0	3	0	0	0	0

平成14年度卒業生

	卒業生数			就 職						進 学						就職進学者数			左記以外の者			死亡・不詳の者			進路未決定率			
				希望者数			就職者数			就職者内訳	就職率	希望者数			進学者数											進学率		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女		計	
電気工学科	67	9	76	38	7	45	38	7	45	別紙	100	29	2	31	29	2	31	100	67	9	76	0	0	0	0	0	0	0
機械工学科	40	0	40	27	0	27	27	0	27		100	13	0	13	13	0	13	100	40	0	40	0	0	0	0	0	0	0
計	107	9	116	65	7	72	65	7	72		100	42	2	44	42	2	44	100	107	9	116	0	0	0	0	0	0	0

平成15年度卒業生

	卒業生数			就 職						進 学						就職進学者数			左記以外の者			死亡・不詳の者			進路未決定率			
				希望者数			就職者数			就職者内訳	就職率	希望者数			進学者数											進学率		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女		計	
電気工学科	86	6	92	59	3	62	59	3	62	別紙	100	27	3	30	27	3	30	100	86	6	92	0	0	0	0	0	0	0
機械工学科	37	0	37	25	0	25	25	0	25		100	12	0	12	12	0	12	100	37	0	37	0	0	0	0	0	0	0
計	123	6	129	84	3	87	84	3	87		100	39	3	42	39	3	42	100	123	6	129	0	0	0	0	0	0	0

平成16年度卒業生

	卒業生数			就 職						進 学						就職進学者数			左記以外の者			死亡・不詳の者			進路未決定率			
				希望者数			就職者数			就職者内訳	就職率	希望者数			進学者数											進学率		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女		計	
電気工学科	68	6	74	40	5	45	40	5	45	別紙	100	25	0	25	25	0	25	100	65	5	70	3	1	4	0	0	0	0
機械工学科	46	1	47	29	0	29	29	0	29		100	15	1	16	15	1	16	100	44	1	45	2	0	2	0	0	0	0
計	114	7	121	69	5	74	69	5	74		100	40	1	41	40	1	41	100	109	6	115	5	1	6	0	0	0	0

(資料6 - 1 - - 3)

「就職状況(職業別)」

		職業別就職者数									合計
		専門的・技術的職業従事者	管理の職業	事務従事者	販売従事者	サービス職業	保安職業	運輸・通信	生産・工程・岩務作業者	左記以外	
平成11年度	電気工学科	37		1	5	11		1		1	56
	機械工学科	20			4	3					27
	計	57	0	1	9	14	0	1	0	1	83
平成12年度	電気工学科	47		2	3			3		2	57
	機械工学科	21			2					1	24
	計	68	0	2	5	0	0	3	0	3	81
平成13年度	電気工学科	50			2			2			54
	機械工学科	26			5			1		1	33
	計	76	0	0	7	0	0	3	0	1	87
平成14年度	電気工学科	40			4			1			45
	機械工学科	22			3			1		1	27
	計	62	0	0	7	0	0	2	0	1	72
平成15年度	電気工学科	54				6				2	62
	機械工学科	21				2				2	25
	計	75	0	0	0	8	0	0	0	4	87
平成16年度	電気工学科	38			3	1		2		1	45
	機械工学科	27			1			1			29
	計	65	0	0	4	1	0	3	0	1	74

(資料6 - 1 - - 4)

「就職状況(産業別)」

		産業別就職者数													合計	
		農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	運輸・通信業	卸売・小売業	飲食店	金融・保険業	不動産業	サービス業		公務
平成11年度	電気工学科					10	25	1	1	5	1	1	11	1		56
	機械工学科					1	19			4			3			27
	計	0	0	0	0	11	44	1	1	9	1	1	14	1	0	83
平成12年度	電気工学科					3	27	1	3	3			16	2	2	57
	機械工学科					1	19			2			1		1	24
	計	0	0	0	0	4	46	1	3	5	0	0	17	2	3	81
平成13年度	電気工学科					7	26	1	2	2			16			54
	機械工学科					3	21		1	5			2	1		33
	計	0	0	0	0	10	47	1	3	7	0	0	18	1	0	87
平成14年度	電気工学科					2	23	1	2	4			13			45
	機械工学科					3	16		1	3			3	1		27
	計	0	0	0	0	5	39	1	3	7	0	0	16	1	0	72
平成15年度	電気工学科					4	26		7	7			15	2	1	62
	機械工学科			1		1	16		1	3			2	1		25
	計	0	0	1	0	5	42	0	8	10	0	0	17	3	1	87
平成16年度	電気工学科				3	19		10	3				9	1		45
	機械工学科				1	21			1				6			29
	計				4	40		10	4				15	1		74

(資料 6 - 1 - - 5)

「進路先一覧」

平成 1 6 年度進路先一覧

学 科	在 籍 者		進 学 者		就 職 者			自 営・その他	求 人 会 社 数	求 人 数	求 人 倍 率
	卒 業 者 数	留 学 者 等	希 望 者 数	合 格 者 数	希 望 者 数	内 定 者 数	内 定 率 (%)				
電 気 工 学 科	74	1	26	25	45	45	100.0	3	360	655	14.6
機 械 工 学 科	47	0	16	16	29	29	100.0	2		336	11.6
総 計	121	1	42	41	74	74	100.0	5		991	13.4

業 種	会 社 名
建 設	※日立ビルシステム、富士電機システムズ、ホクシン工業、ヨネモリ
食 料 品・飲 料・飼 料 ・ た ば こ 製 造	寿がきや食品、パールライス石川、明治乳業、山崎製パン
鉄 鋼・非 鉄 金 属 ・ 金 属 製 品 製 造	共和工業所、三光製作所、ダイワ、東洋製罐
一 般 機 械 器 具 製 造	浅井鉄工、稲本製作所、コマツエンジニアリング、※澁谷工業、鈴木鉄工、 ダイキン工業、※ディー・エヌ・ケー、長津工業、中村留精密工業、 日本オーチス・エレベータ、日本自動ドア、※根上工作所、村谷機械製作所
電 気・情 報 通 信 機 械 器 具 製 造	アールビーコントロールズ、アイ・オー・データ機器、朝日電機製作所、 西南電機製作所、大日製作所
輸 送 用 機 械 器 具 製 造	小島プレス工業、日産ディーゼル技術研究所、本田技研工業 パナソニックオートモーティブシステムズ社
精 密 機 械 器 具 製 造	浅野歯車工作所
そ の 他 製 造	アルバックテクノ、任天堂
情 報 通 信	アルファシステムズ、かがつうシステム、京装コンピュータ、シーエスエヌ、 シーピーユー、中日新聞北陸本社、ネクストウエア、ユニアデックス
運 輸	東海旅客鉄道、西日本旅客鉄道
卸 売	キャノンシステムアンドサポート、北国建機販売、横山商会
小 売	三菱
公 務 員	自衛隊
その他のサービス	UP BEAT homme、NECフィールドイング、 沖電気カスタマアドテック、総合警備保障、※ダイテックス、テクノパワー、 テクモ、トスマク・アイ、ドアメンテナンス、ヒップ、 富士通サポートアンドサービス、三菱電機システムサービス、 三菱電機ビルテクノサービス、リコーテクノシステムズ
進 学	金沢工業大学(32名)、豊橋技術科学大学、富山大学、福井大学 金沢学院大学、金城大学短期大学部(2名) トヨタ名古屋整備専門学校

(株)省略 ※印の会社には2名以上が就職

(出典 「第39回卒業生名簿(平成17年度3月15日卒業)」抜粋)

(資料6 - 1 - - 6)

「進学状況(進学者数)」

平成12年度卒業生

	大学編入学者数									大学1年次入学			高専専攻科入学			その他			進学者計
	3年次編入			2年次編入			計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計										
電気工学科	23	4	27	2	0	2	25	4	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29
機械工学科	20	0	20	0	0	0	20	0	20	0	0	0	0	0	0	1	0	1	21
計	43	4	47	2	0	2	45	4	49	0	0	0	0	0	0	1	0	1	50

平成13年度卒業生

	大学編入学者数									大学1年次入学			高専専攻科入学			その他			進学者計
	3年次編入			2年次編入			計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計										
電気工学科	25	1	26	1	0	1	26	1	27	0	0	0	0	0	0	3	0	3	30
機械工学科	10	0	10	0	0	0	10	0	10	0	0	0	0	0	0	2	0	2	12
計	35	1	36	1	0	1	36	1	37	0	0	0	0	0	0	5	0	5	42

平成14年度卒業生

	大学編入学者数									大学1年次入学			高専専攻科入学			その他			進学者計
	3年次編入			2年次編入			計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計										
電気工学科	23	1	24	0	1	1	23	2	25	0	0	0	1	0	1	5	0	5	31
機械工学科	11	0	11	1	0	1	12	0	12	0	0	0	0	0	0	1	0	1	13
計	34	1	35	1	1	2	35	2	37	0	0	0	1	0	1	6	0	6	44

平成15年度卒業生

	大学編入学者数									大学1年次入学			高専専攻科入学			その他			進学者計
	3年次編入			2年次編入			計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計										
電気工学科	23	2	25	2	0	2	25	2	27	0	0	0	0	0	0	2	1	3	30
機械工学科	10	0	10	0	0	0	10	0	10	0	0	0	0	0	0	2	0	2	12
計	33	2	35	2	0	2	35	2	37	0	0	0	0	0	0	4	1	5	42

平成16年度卒業生

	大学編入学者数									大学1年次入学			高専専攻科入学			その他			進学者計
	3年次編入			2年次編入			計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計										
電気工学科	20	0	20	4	0	4	24	0	24	1	0	1	0	0	0	0	0	0	25
機械工学科	10	1	11	2	0	2	12	1	13	1	0	1	0	0	0	2	0	2	16
計	30	1	31	6	0	6	36	1	37	2	0	2	0	0	0	2	0	2	41

(資料6 - 1 - - 7)

「進学状況(進学先)」

編入学先大学(学部)	平成11年度 卒業生	平成12年度 卒業生	平成13年度 卒業生	平成14年度 卒業生	平成15年度 卒業生	平成16年度 卒業生
金沢工業大学(工学部)	16	30	21	26	27	32
長岡技術科学大学(工学部)	3	3	3	2	2	
豊橋技術科学大学(工学部)	2	1	2	1		1
新潟大学(工学部)	1	1		1		
富山大学(工学部)	2	1	3	1	2	1
金沢大学(工学部)	1	1	1	1	1	
福井大学(工学部)	1	3	2	1		1
高知工科大学(工学部)	1					
中部大学(工学部)	2	2				
福井工業大学(工学部)	2					
大同工業大学(工学部)	1					
金沢学院大学(経営情報学部)	1			2	1	1
信州大学(工学部)		1				
三重大学(工学部)		1				
北海道工業大学(工学部)		1				
米国ニューヨーク大学(工学部)		1				
東京農工大学(工学部)			1		1	
日本大学(理工学部)			1			
関西大学(総合情報学部)				1		
日本福祉大学(社会福祉学部)				1		
大手前大学(社会文化学部)					1	
米国セント・マイケルズ大学	2	3	3		1	
石川工業高等専門学校専攻科				1		
南九州大学(環境造園学部)					1	
オタゴ・ポリテクニク						1
合 計	35	49	37	38	37	37

観点6 - 1 - 学生が行う学習達成度評価等から判断して、学校の意図する教育の成果や効果が上がっているか。

(観点にかかる状況)

- ・学生自身による学習達成度評価は、現在行えていません。各科目の成績は、学習支援計画書(シラバス)の評価基準(定期試験、課題、学習態度等)によって決められており、学生は学期ごとの成績によって自己の学習に対する取り組みの評価を確認することができます。
- ・学生の達成度評価の前提には、目標の理解と共有が必要です。教員は、授業アンケート結果や教育成果発表会での情報交換、自己点検自己評価書による校長との面談などを踏まえて、「教育改善への取組と今年度の目標」を作成しています。これにより各教員が担当する学科目の到達目標や行動目標が定められています。
- ・教員は、授業アンケート結果報告会や教育成果発表会による教員間の情報交換を通して、教育の目標に関する理解と合意形成を進めています。
- ・授業アンケートは、AからQの質問項目を設定し、うちAからKは、全学科目一律の質問内容としています。LからQは、各科目独自の設定を教科目担当者が設定できることとしています。
- ・一部の学科目において授業アンケートのLからQの中に達成度を把握する項目を設けていますが、十分機能するに至っていないと認識しています。(資料6 - 1 - - 4「KTC授業アンケート調査結果」)
- ・本校の教育方針に基づき、正課及び正課外の活動において、優秀な成果を修めた学生等に対して推薦し表彰・褒賞を行っています。(資料6 - 1 - - 1「金沢工業高等専門学校校長表彰・褒賞規程」)、(資料6 - 1 - - 2「校長表彰・褒賞者の一覧」)
- ・成績優秀者に対する特待生制度を設け、奨学金を給付しています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・一部の学科目において、学生の満足度が低い結果であったことは、本校の意図する「わかりやすい授業の実践」や「学習意欲の触発への取組」が不十分であったと考えています。(資料6 - 1 - - 3「KTC授業アンケート調査結果」)
- ・授業アンケートのLからQの項目は、現在のところ「何々が理解できたか」が主な質問内容です。今後、平成17年度から「学習支援計画書(シラバス)」に記載される到達目標や行動目標に沿った項目の設定に改めていく中で「何ができるようになったか」を問える達成度評価に繋げてまいります。(資料6 - 1 - - 4「KTC授業アンケート調査結果」)
- ・学生は学期ごとの成績や表彰・褒賞等を通じて、自己の学習に対する達成度を把握できていると考えています。
- ・今後キャリアデザイン教育の充実を図り、学生がKIT-IDEALSに基づく自己実現の目標を持つことを進める中で、現行の満足度評価から達成度評価への転換を目指しています。

(資料6 - 1 - - 1)

「金沢工業高等専門学校校長表彰・褒賞規程」

金沢工業高等専門学校校長表彰・褒賞規程

第1条 本校の教育方針に基づき、正課及び正課外の活動において、優秀な成果を修めた本校学生に対し校長表彰又は校長褒賞を行う。

第2条 前条の表彰又は褒賞を受ける学生(以下「表彰・褒賞学生」という。)は、別表に掲げる項目の一つに該当する者から選ばれるものとする。

第3条 表彰・褒賞学生は、本校教職員の推薦により、校長が決定する。推薦者は、所定の推薦書を提出するものとする。

第4条 表彰・褒賞学生には、校長が表彰状又は褒状を授与する。

第5条 表彰・褒賞を行う方式、時期等については、校長がその都度定める。

附 則

この規程は、昭和61年4月1日より施行する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」PP.103~104)

別表 校長 表彰・褒賞学生

表彰名称	基準
優等賞	総合成績で優れた成績を収めた者
資格試験合格	資格試験合格者 表彰・褒賞基準参照
競技会入賞	競技会、コンテスト入賞者、その他の課外活動 表彰・褒賞基準参照
コンテスト入賞	
1カ年間皆勤賞	1カ年間皆勤の者
部活動1カ年間皆勤賞	部活動1カ年間皆勤の者
部活動1カ年間精勤賞	部活動1カ年間精勤の者
貢献賞	競技会、コンテスト入賞者、その他の課外活動 表彰・褒賞基準参照
功労賞	功労賞基準参照
部活動5カ年間皆勤賞	4年生までの活動日数総計が560日以上で、5年生前期までの欠席日数が3日以内の者。または、4年生までの活動日数総計が480日以上で、5年生前期まで皆勤の者。
部活動5カ年間精勤賞	4年生までの活動日数総計が560日以上で、5年生前期までの欠席日数が10日以内の者。または、4年生までの活動日数総計が480日以上で、5年生前期までの欠席日数が3日以内の者。
5カ年間皆勤賞	欠課合計時間数が6.5時間までで、SH欠課時間数が授業日数(終業式・卒業式を除く)×0.2を超えない者。
5カ年間精勤賞	欠課合計時間数が27.5時間までで、SH欠課時間数が授業日数(終業式・卒業式を除く)×0.2を超えない者。

褒賞名称	基準
優秀科目賞	科目において優れた成績を収めた者
資格試験合格	資格試験合格者 表彰・褒賞基準参照
競技会入賞	競技会、コンテスト入賞者、その他の課外活動 表彰・褒賞基準参照
コンテスト入賞	
貢献賞	
功労賞	功労賞基準参照

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」PP.103～104)

(資料6 - 1 - - 2)

「校長表彰・褒賞者の一覧」

(単位：人数)

	平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
皆勤、 精勤賞	1年		50		56		33		48		45		43
	2年		29		54		48		32		37		55
	3年		17		40		42		42		23		29
	4年		23		17		37		28		39		22
	5年		38		41		42		82		67		61
	計		157		208		202		232		211		210

	平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
優等賞	1年		6		6		6		6		6		6
	2年		6		6		6		6		6		6
	3年		6		6		6		6		6		6
	4年		6		6		6		6		6		6
	5年		12		12		12		12		12		12
	計		36		36		36		36		36		36

	平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
優秀科目賞	1年		23		39		38		42		54		72
	2年		46		39		60		54		84		60
	3年		39		39		59		47		45		53
	4年		52		36		53		38		52		72
	5年		32		21		31		32		25		59
	計		192		174		241		213		260		316

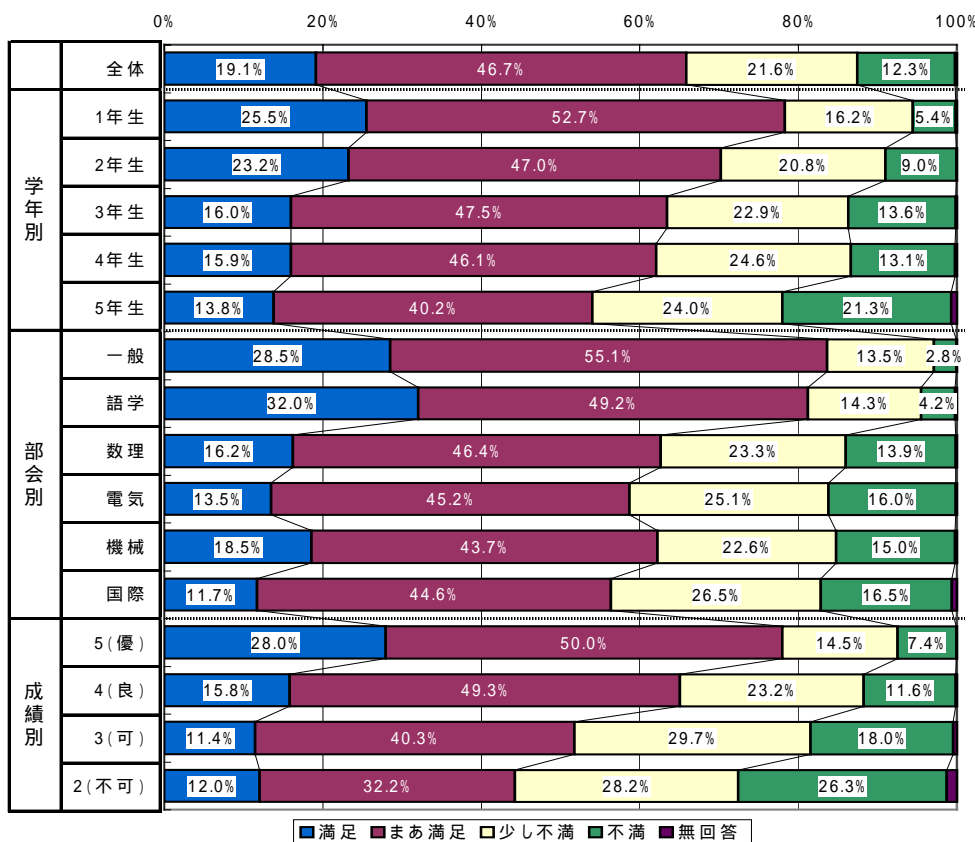
	平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
資格取得者	1年	3	19	1	24	7	10	8	18	0	2	23	28
	2年	24	22	11	29	14	13	24	10	15	21	13	46
	3年	10	23	22	29	20	26	34	10	26	9	8	25
	4年	15	23	8	20	16	3	27	20	34	10	32	29
	5年	6	3	7	1	12	8	15	10	26	2	16	7
	計	58	90	49	103	69	60	108	68	101	44	92	135

	平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
課外活動	1年	15	4	7	5	5	6	1	15	9	16	13	4
	2年	19	3	9	10	21	10	6	11	10	8	13	19
	3年	13	3	19	11	12	4	12	16	3	3	17	15
	4年	34	5	8	8	18	5	10	12	14	5	5	13
	5年	18	26	24	29	21	25	14	34	18	24	20	21
	計	99	41	67	63	77	50	43	88	54	56	68	72

(資料6 - 1 - - 3)

「1年間の授業が終わった後の授業の満足について」

K.満足度



7) 基本的集計のまとめ

全体の67.6%は授業に興味を持ち、63.0%は積極的に授業に取り組んでいる。そして、65.8%は授業に満足していた。

- 学生の授業への取り組みは「興味を持っている」「積極的に取り組んでいる」が共に6割程度、「満足している」も6割程度であり、過半数は比較的充実しているようであるが、4割は何らかの不満を持っている。
- 教材や課題に対しては6～7割は役に立ったと評価しており、板書や説明、話し方、授業の工夫など、授業の進め方に関して6～7割が満足していた。
- そして、教員は質問にはキチンと対応しており、8割が良い評価をしていた。

評定別に比較すると授業評価は完全に評定順になり、成績の良い層は授業の評価も高く、満足度も高い。

- 全ての項目に評定との相関関係が見られ、成績の良い層ほど授業に興味を持ち、積極的に取り組んでいる。そして、授業の進め方に対する評価も高く、満足度も高いという傾向にある。
- 「可」と「不可」の間の差は大きくなく、両者の差が少ないことが確認できた。満足度を見ると両者共にマイナスであり、授業への興味、自分の取り組み姿勢が低い点が目立った。
- そして、評定が良くない層ほど授業が速いと感じていた。

学年別比較では、学年が上がるほど全ての評価が下がっており、満足度では1年生と5年生で24.2ポイントの差がついた。

- 学年別の比較では、1年生の評価が最も高く、2年生になると少し低下し、3年生と4年生が同程度、そして、5年生で大きく低下する傾向が見られた。
- 満足度では1年生は78.2%が満足していたが、5年生では54.0%と、24.2ポイントの大きな差がついていた。
- また、加重平均で唯一マイナスとなったのは5年生の「自分の取り組み」であり、5年生では積極的に授業に取り組んでいるという回答が半数に達していなかった。

満足度別に見ると、満足度の高い層は全体的に評価が高いが、満足度が低い層は授業の進め方への不満が大きい。

- 満足度別に見ると、当然ながら満足度の高い層は他の項目の評価も高く、ほとんどの項目で満点に近いスコアであった。
- 満足度の高い層は「自分の取り組み」も「授業の教材や進め方」も全体的に高スコアであったが、満足度が低くなるほど授業への興味や積極性が下がり、内容に関しても話し方や板書や説明、授業の工夫への評価が下がる傾向が見られた。
- そして、不満を持っている層ほど授業の速度を速く感じており、予習・復習に充てる時間も少なかった。

部会別に比較すると、「一般」と「語学」が全体的に高めであり、満足度は上記に次いで「機械」「数理」「電気」「国際」という順。

- 「一般」と「語学」の評価が非常に高く、「一般」では「授業での話し方など」の評価が高い点が目立っており、「語学」「一般」ともに「授業への興味」が目立っていた。
- この「授業への興味」がどのように形成されるのかは今後のポイントになるものと思われる。
- 「一般」「語学」に次いで「数理」が続き、専門の3部会は低めの評価であった。
- 満足度は「一般」「語学」「機械」「数理」「電気」「国際」という順であった。

(出典 「平成16年度 KTC授業アンケート調査結果」 PP.21～22)

(資料 6 - 1 - - 4)

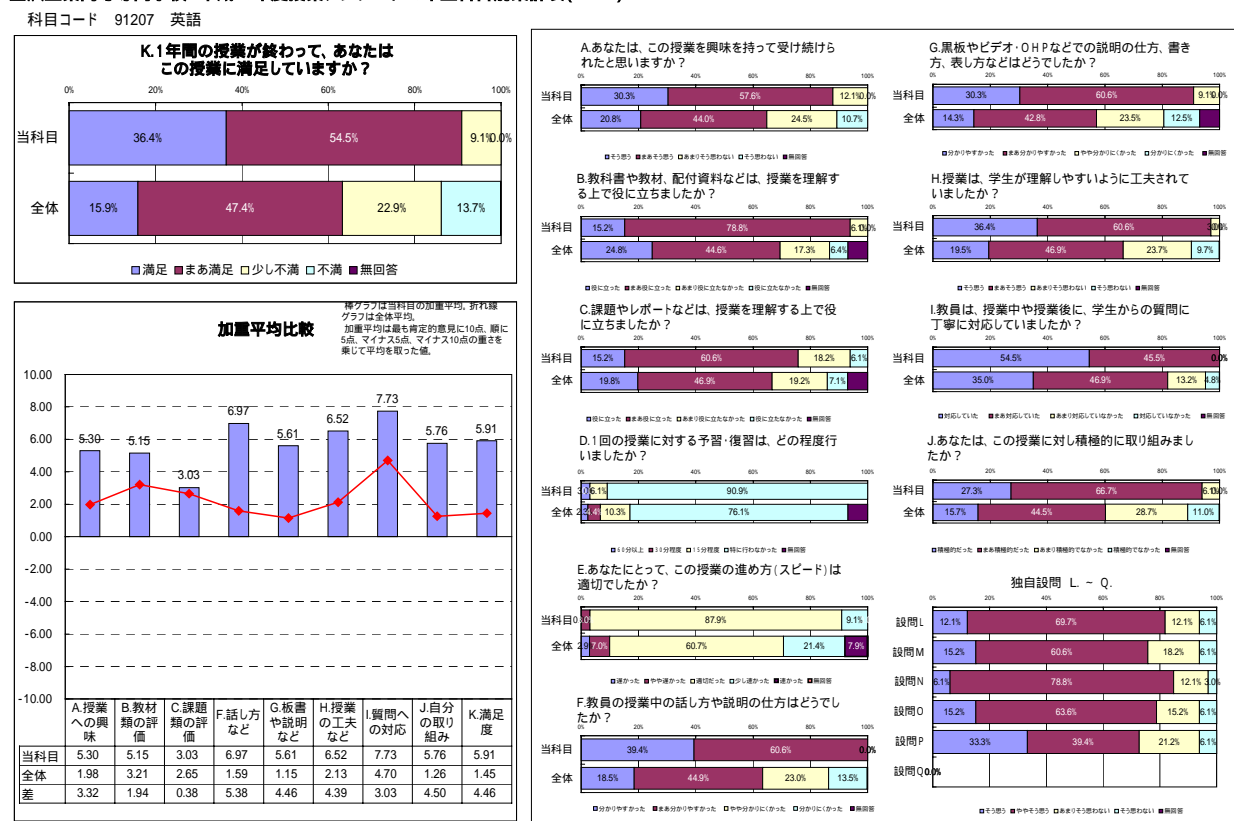
「KTC授業アンケート調査結果」

金沢工業高等専門学校 平成16年度授業アンケート 3年生科目別集計表(1/2)

科目コード 91207 英語		設 問				選 択 肢		回 答 数・%		回答総数	標準偏差・加重平均
A.	あなたは、この授業に興味を持って受け続けられたと思いますか？	そう思う 10 (30.3%)	まあそう思う 19 (57.6%)	あまりそう思わない 4 (12.1%)	そう思わない 0 (0.0%)	無回答 0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.635 5.30			
B.	教科書や教材、配付資料などは、授業を理解する上で役に立ちましたか？	役に立った 5 (15.2%)	まあ役に立った 26 (78.8%)	あまり役に立たなかった 2 (6.1%)	役に立たなかった 0 (0.0%)	無回答 0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.459 5.15			
C.	課題やレポートなどは、授業を理解する上で役に立ちましたか？	役に立った 5 (15.2%)	まあ役に立った 20 (60.6%)	あまり役に立たなかった 6 (18.2%)	役に立たなかった 2 (6.1%)	無回答 0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.755 3.03			
D.	1回の授業に対する予習・復習は、どの程度行いましたか？	6分以上 1 (3.0%)	3分程度 0 (0.0%)	1分程度 2 (6.1%)	特に行わなかった 30 (90.9%)	無回答 0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.566 -			
E.	あなたにとって、この授業の進め方(スピード)は適切でしたか？	遅かった 0 (0.0%)	やや遅かった 1 (3.0%)	適切だった 29 (87.9%)	少し速かった 3 (9.1%)	速かった 0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.348 -			
F.	教員の授業中の話し方や説明の仕方はどうでしたか？	分かりやすかった 13 (39.4%)	まあ分かりやすかった 20 (60.6%)	やや分かりにくかった 0 (0.0%)	分かりにくかった 0 (0.0%)	無回答 0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.496 6.97			
G.	黒板やビデオ・OHPなどの説明の仕方、書き方、表示などはどうでしたか？	分かりやすかった 10 (30.3%)	まあ分かりやすかった 20 (60.6%)	やや分かりにくかった 3 (9.1%)	分かりにくかった 0 (0.0%)	無回答 0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.600 5.61			
H.	授業は、学生が理解しやすいように工夫されていましたか？	そう思う 12 (36.4%)	まあそう思う 20 (60.6%)	あまりそう思わない 1 (3.0%)	そう思わない 0 (0.0%)	無回答 0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.540 6.52			
I.	教員は、授業中や授業後に、学生からの質問に丁寧に対応していましたか？	対応していた 18 (54.5%)	まあ対応していた 15 (45.5%)	あまり対応していなかった 0 (0.0%)	対応していなかった 0 (0.0%)	無回答 0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.506 7.73			
J.	あなたは、この授業に対し積極的に取り組みましたか？	積極的だった 9 (27.3%)	まあ積極的だった 22 (66.7%)	あまり積極的でなかった 2 (6.1%)	積極的でなかった 0 (0.0%)	無回答 0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.545 5.76			
K.	1年間の授業が終わって、あなたはこの授業に満足していますか？	満足 12 (36.4%)	まあ満足 18 (54.5%)	少し不満 3 (9.1%)	不満 0 (0.0%)	無回答 0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.626 5.91			
L.	英語の質問に答えることが出来るようになったと思いますか？	そう思う 4 (12.1%)	ややそう思う 23 (69.7%)	あまりそう思わない 4 (12.1%)	そう思わない 2 (6.1%)	無回答 0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.696 3.48			
M.	語彙が以前よりついたと思いますか？	そう思う 5 (15.2%)	ややそう思う 20 (60.6%)	あまりそう思わない 6 (18.2%)	そう思わない 2 (6.1%)	無回答 0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.755 3.03			
N.	英文を日本語を通さずこでも理解することが出来るようになったと思いますか？	そう思う 2 (6.1%)	ややそう思う 26 (78.8%)	あまりそう思わない 4 (12.1%)	そう思わない 3 (9.1%)	無回答 0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.545 3.64			
O.	以前より英語が難しくないと気持ちになりましたか？	そう思う 5 (15.2%)	ややそう思う 21 (63.6%)	あまりそう思わない 5 (15.2%)	そう思わない 2 (6.1%)	無回答 0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.740 3.33			
P.	今後の英語学習に対する興味が深まったと思いますか？	そう思う 11 (33.3%)	ややそう思う 13 (39.4%)	あまりそう思わない 7 (21.2%)	そう思わない 2 (6.1%)	無回答 0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.901 3.64			
Q.	未設定	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答					

*標準偏差は値が少ないほど回答の偏りが少ない意見がまとまっていることを表します。加重平均は「そう思う」役に立った、などの肯定的意見に10点、順に5点、マイナス5点、最も否定的意見にマイナス10点の重さをつけて平均を取った値であり、大きいほど肯定的意見が多いことを表します。

金沢工業高等専門学校 平成16年度授業アンケート 3年生科目別集計表(2/2)



(出典 「平成16年度 KTC授業アンケート調査結果」 PP.250 ~ 251)

(資料 6 - 1 - - 4)

「KTC授業アンケート調査結果」

金沢工業高等専門学校 平成16年度授業アンケート 3年生科目別集計表(1/2)

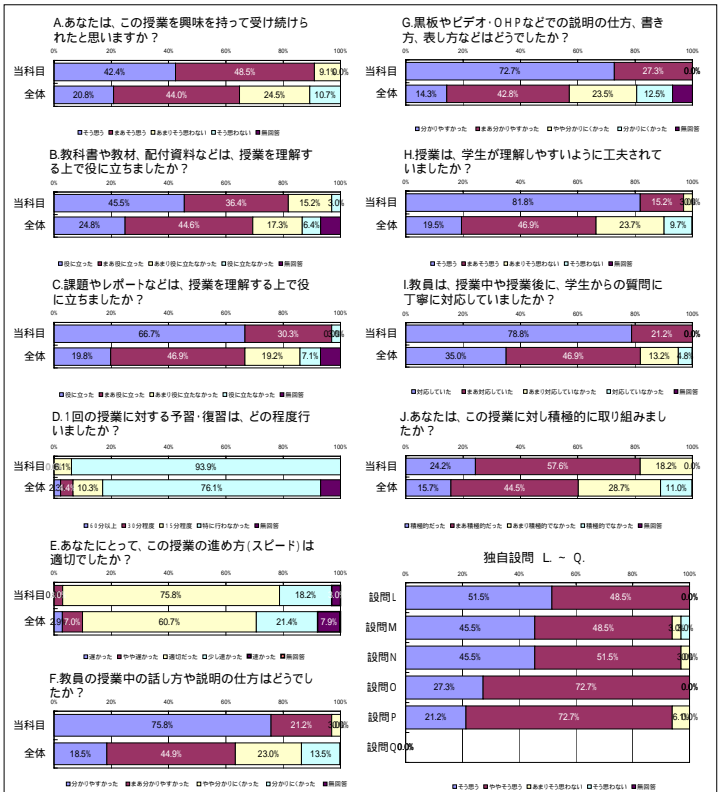
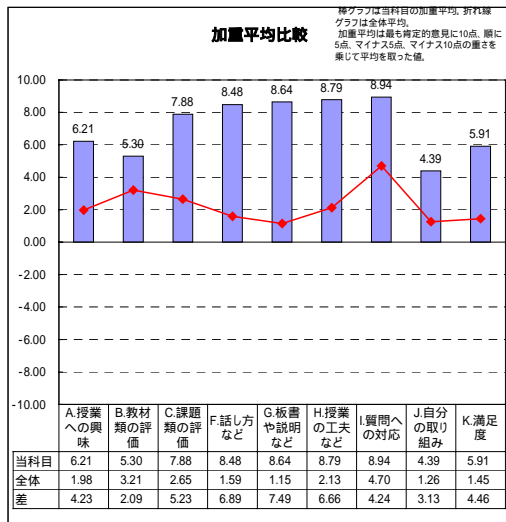
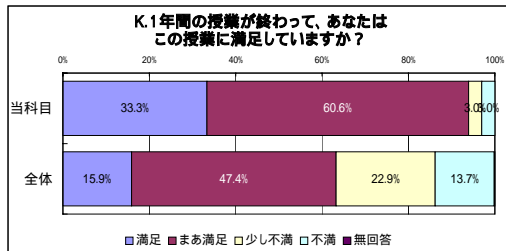
科目コード 95077 材料力学

設問	選 択 肢					回答数・%	回答総数	標準偏差・加重平均
	そう思う	まあ思う	あまり思うでない	そう思わない	無回答			
A. あなたは、この授業を興味を持って受け続けられたと思いますか？	14 (42.4%)	16 (48.5%)	3 (9.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.645 6.21	
B. 教科書や教材、配付資料などは、授業を理解する上で役に立ちましたか？	15 (45.5%)	12 (36.4%)	5 (15.2%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.830 5.30	
C. 課題やレポートなどは、授業を理解する上で役に立ちましたか？	22 (66.7%)	10 (30.3%)	0 (0.0%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.659 7.88	
D. 1回の授業に対する予習・復習は、どの程度行いましたか？	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (6.1%)	31 (93.9%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.242 -	
E. あなたにとって、この授業の進め方(スピード)は適切でしたか？	0 (0.0%)	1 (3.0%)	25 (75.8%)	6 (18.2%)	1 (3.0%)	33 (100.0%)	0.545 -	
F. 教員の授業中の話し方や説明の仕方はどうでしたか？	25 (75.8%)	7 (21.2%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.517 8.48	
G. 黒板やビデオ・OHPなどでの説明の仕方、書き方、表し方などはどうでしたか？	24 (72.7%)	9 (27.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.452 8.64	
H. 授業は、学生が理解しやすいように工夫されていましたか？	27 (81.8%)	5 (15.2%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.485 8.79	
I. 教員は、授業中や授業後に、学生からの質問に丁寧に対応していましたか？	26 (78.8%)	7 (21.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.415 8.94	
J. あなたは、この授業に対し積極的に取り組みましたか？	8 (24.2%)	19 (57.6%)	6 (18.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.659 4.39	
K. 1年間の授業が終わって、あなたはこの授業に満足していますか？	11 (33.3%)	20 (60.6%)	1 (3.0%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.663 5.91	
L. 材料に生ずるストレスの求め方が理解できましたか？	17 (51.5%)	16 (48.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.508 7.58	
M. 材料に生ずるひずみの求め方が理解できましたか？	15 (45.5%)	16 (48.5%)	1 (3.0%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.699 6.52	
N. フックの法則が理解できましたか？	15 (45.5%)	17 (51.5%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.561 6.97	
O. 引張、圧縮、せん断の強度の求め方が理解できましたか？	9 (27.3%)	24 (72.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.452 6.36	
P. 初等材料力学の基礎が身に付きましたか？	7 (21.2%)	24 (72.7%)	2 (6.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.508 5.45	
Q. 未設定								

標準偏差：は値が少ないほど回答の偏りが少ない意見が多くなっていくことを表します。加重平均は「そう思う」役に立った」などの肯定意見に10点、順に5点、マイナス5点、最も否定的な意見にマイナス10点の重さを乗じて平均を取った値であり、大きいほど肯定的な意見が多いことを表します。

金沢工業高等専門学校 平成16年度授業アンケート 3年生科目別集計表(2/2)

科目コード 95077 材料力学



(出典 「平成16年度 KTC授業アンケート調査結果」 PP.300 ~ 301)

観点 6 - 1 - 卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取り組みを実施しているか。またその結果から判断して教育の成果や効果が上がっているか。

（観点にかかる状況）

・本校では、これまで進路指導委員会の担当教員が中心となり各企業を訪問し、人事担当者や卒業生からの聞き取りによって情報を収集しています。また、平成15年度に進路先及び過去5か年間の卒業生に対してアンケートを実施しています。これらの結果は、校長に報告され、学務会議において発表される等、情報の共有に努めています。

（分析結果とその根拠理由）

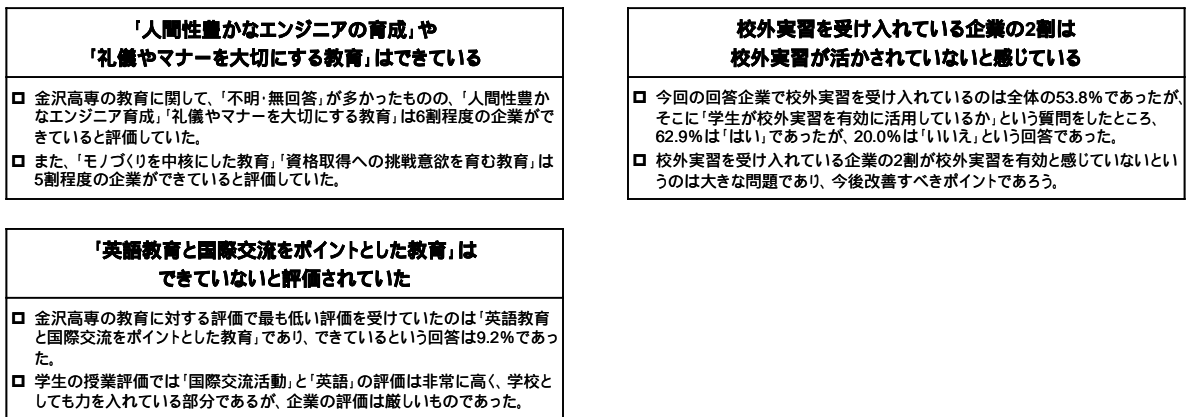
・人事担当者や卒業生からの聞き取りでは、一部の卒業生に企業内の人間関係に不満を持ち早期に退職するなどの問題が見受けられますが、おおむね良好な勤務実績を示しています。また、アンケートの分析結果では、「人間性豊かなエンジニア育成」「礼儀やマナーを大切にせる教育」を約6割の企業ができていると評価する等、本校の教育成果が得られていると考えています。（資料6 - 1 - 1）

（資料6 - 1 - 1）

「企業等からの意見聴取」

<7-1> 企業からの評価に関して

? 企業からの評価のまとめ



<今後、企業対応で気を付けるべきポイント>

- 現在の金沢高専の教育に関する評価は比較的高く、自由記述を見ても大きな問題は見られなかった。卒業生の能力評価においても、卒業生自身や教職員の評価よりも高い評価を受けていた。
- 「英語と国際交流をポイントとした教育」に関しての評価はそれほど高くなかったが、「英語と国際交流」という教育において企業と金沢高専の期待する点異なる可能性もあり、今後はこのベクトルを合わせる努力が必要になると思われる。
- 校外実習を受け入れている企業の2割が校外実習が活かされていないと感じている。協力をしていただいているにもかかわらずこの評価は非常に厳しいものであると受け止め、今後は校外実習の内容の見直しなども考えていくべきではないかと思われる。

（出典 「平成15年度 KTC総合アンケート調査結果」 P.71）

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ K T C 授業アンケートや K T C 総合アンケートによって学生や企業、卒業生から直接的な評価が得られる仕組みが確立されています。
- ・ クラス担任、部活顧問、科目担当等複数の教員が立場を異にして学生の声を聞く体制が確立されています。
- ・ 進路指導委員会の担当教員が毎年企業を訪問し、企業担当者との間に聞き取りによる情報の収集ができる人間関係が確立されています。
- ・ 校長と教員が「教育の抱負及び実施に関する報告書」を基に面談し、さらに教育成果発表会によって教育方法等の改善について協議するなど、情報を共有する仕組みを確立しています。

(改善を要する点)

- ・ K T C 授業アンケートや K T C 総合アンケートによる分析結果等を基に、教育成果の向上に役立つ仕組みをさらに構築する必要があると考えています。
- ・ 学生による学習達成度評価ができておらず、現行の満足度評価を達成度評価に転換するべく努力を行ってまいります。

(3) 基準 6 の自己評価の概要

単位取得、進級・卒業の状況、就職・進学状況、資格取得の状況、卒業論文の内容・水準から判断して、教育の実績や効果が上がっていると考えています。本校では学生による学習達成度評価を行っていませんが、授業満足度評価が行われており、その結果によれば、おおむね高い満足度を示しています。しかしながら、一般科目に比して専門科目で満足度が低下する傾向を示しています。また学生の授業評価に対応する授業内容や方法の改善、学生の意欲喚起に係る方策などは、まだ具体的な成果が得られるまでには至っていないと認識しています。一方で、学生の就職先や企業実習先、過去5年間の卒業生などに対するアンケートを実施し、卒業生が在学時に身につけた学力や資質・能力等に関する意見を聴取する取り組みを行ったところ、その評価に基づけば教育の効果が上がっていると考えられます。

しかしこの評価は、卒業生が卒業後自身の努力によって獲得した学力や資質、能力の源泉を本校における教育の成果に置いてくれていることにあると考えられます。本校とすれば、これに安住することなく、本校教育の充実に向けてさらなる努力が必要です。

以上のとおり、本校で教授した教育の成果や効果を総合的に判断すれば、今後さらなる継続した努力が必要であると考えています。